

[026] 中国文学論集表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/9898>

出版情報：中国文学論集. 26, 1997-12-25. 九州大学中国文学会
バージョン：
権利関係：

編集後記

『中国文学論集』第二十六号をお届けいたします。今回は、佐賀大学の古川先生、広島女子大学の柳川先生、山口大学の阿部先生にご寄稿いただきました。また、本学大学院在学中の胡・諸田・武三氏の論文に加え、竹村先生の『長生殿』訳注を掲載しております。

さて、前号でも触れましたとおり、当文学会の運営は年々厳しくなりつつあります。そこで、印刷費をいくらかでも削減するために、各論文を奇数ページよりはじめるという原則を今号より廃止し、空白ページを極力無くすることと致しました。同時に、会員の皆様にも、ご寄稿の際には四百字詰原稿用紙四十枚という条件を遵守して下さいようお願いいたします。特に近年はコンピュータ入力の際に原稿が増え、原稿用紙換算の難しい面もありますが、どうぞご留意ください。ところで、当会活動の更なる活性化の為に、昨年より日本中国学会大会会場において、『中国文学論集』の販売ならびに当会への入会受付をはじめました。多くの方に実際に手にとっていただき、当会の活動を知っていただくことを期待しております。

今号冒頭には隠逸に関する論文が並ぶこととなりました。「世紀末」という言葉が氾濫する昨今ですが、そういった落ち着きのない世相とも何か関連があるのでしょうか。一方、今号開始の『長生殿』訳注は、原作が五十齣に及ぶ長編であることを考えれば、完結をみるのはおそらく次の世紀ということになると思われれます。我々の研究活動が、時代に関わりつつ、また、時代を越えて継続していくことを、切に望みます。

(岡村真寿美記)